

# 日本経済新聞

土曜版

NIKKEI 夕刊

2019年 11月30日 出  
(令和元年)

## 外食も旅館も カモンベビー

室を0〜6歳児連れ家族専用とし、客室内にはベビーベッドのほか、電子レンジで使える哺乳瓶殺菌キットなど荷物が多くなりがちな親にうれしいグッズを備える。館内には保育室も設け、夕食時や温泉に入る間に預ける客が多いという。

赤ちゃん連れで親も楽しめる飲食店や宿泊施設が増えた。子どもが小さいときは、周囲に気を使って進出を控える親たちも多いもの。店側はベビーフレンドリーな施設やサービスを提供する一方で、そんな親たちの来店を促している。親同士の口コミやSNSでの拡散で、来店客やリピーターの増加につながっているようだ。

### ママ友の口コミを意識

リアンのコース料理は2千円と3500円の2種類だ。  
■店舗が、SNSも影響もつまずけ1歳になる長女と訪れた亀井あかりさん(29)は「外食だと子どもが騒ぐのを気にして、ファミリーレストランなど行く店が偏りがち。安心できる環境でおいしい料理を楽しめるのが魅力だ」と話す。  
運営会社によると、オンライン以来客は増え続け、いまでは土日を中心に予約で満席の日も多い。3代目で訪れる客もいて、テーブル単価は高く、昨年には神宮前にある高級イタリアン「カニタラワシ」も午後5時からの3時間を子ども連れ専用タイムにした。

### リピーター増狙う

しゃれたインスタグラムなどに影響を受け、0歳児で高級レストランに連れていく親も増えていく。ママたちの口コミが強い店も「子連れに優しい店」と認識してもらうことで利用客の増加につながるのでないかと分析する。  
■宿は多彩なサービス 移動や滞在時間が長い泊まりがけの旅行は、連れ出す親も勇気がいる。泊る際の親も「ベビーベッドの観光庁によると、宿泊旅行に出かける頻度、貸し出しが足りなくなっている」とも。妊婦前を1とする子どもが生後6カ月未満で0・4、2歳までが0・6にとどまる。そんな中、営業戦略として積極的に子連れ客を受け入れる宿も増えてきた。  
「ミキハウス子育て総研(東京・港)の認定「乳児を連れていく」と他100項目をチェックし、騒音が気にならない、安心して利用できる指標として認定する「ウエルカムベビーのお宿」は今年90施設と5年前の2倍以上になった。  
この認定を受けたホテルエビタル那須(栃木県那須町)は全314室のうち、3階フロアの17部屋数を減らし、1泊2食付きで1人2万7千円から当初より7千円近く値段を上げたが客足は変わらず、「最近ばかりの旅行という関西近郊からのお客さんが増えた」という。



赤ちゃん連れの母親たちが食卓を囲む様子(左)。「サ・ドーム」(東京臨海臨港圏)区)



角の丸い家具や柔らかい床など、赤ちゃんの安全に配慮した(栃木県那須町のホテルエビタル那須)

ミキハウス子育て総研の藤田洋社長は、「乳幼児連れは料金や安価な時期に旅行に出ることが多く、閑散期の稼働率を上げる効果がある」と指摘。「赤ちゃん連れへのサービス研修をする宿もあり、親にとって最も重要な『安心』を売りにリピーターを増やしている宿が多い」と話している。(横沢太郎)